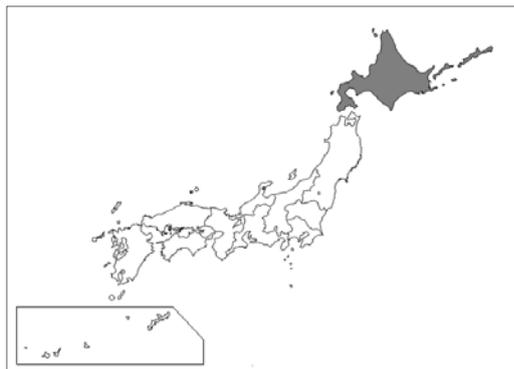


3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化しており、極めて厳しい状況にある。

- ・ 鉱工業生産は新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している。
- ・ 個人消費は新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している。
- ・ 雇用情勢は新型コロナウイルス感染症の影響により、弱さが増している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)。

前回からの主要変更点

	前回(令和2年3月)	今回(令和2年5月)
景況判断	足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱い動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化しており、極めて厳しい状況にある
鉱工業生産	新型コロナウイルス感染症による影響があり、一段と弱含んでいる	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している
観光	増加	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している
個人消費	足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱含んでいる	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している
雇用情勢	改善	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱さが増している

1. 鉱工業生産等の動向

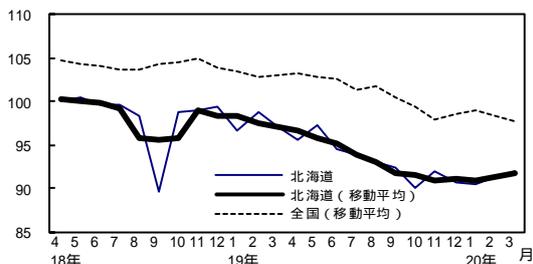
(1) 第一次産業は生乳生産、主な水産物の生産額ともに前年を上回っている。

1 - 3月期には、生乳生産は総量では1,027,542tと前年比4.4%増となった。主な水産物の生産額(主要9港)は、すけとうだら等が増加したため、前年比1.9%増となった。

(2) 鉱工業生産は新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している。

1 - 3月期には、食料品は、冷凍水産物等の生産が増加したことにより、増加した。パルプ・紙は、情報用紙等の生産が減少したことにより、減少した。電気機械は、減少した。鉄鋼は、減少した。化学・石油石炭製品は、B・C重油等の生産が増加したことにより、増加した。

鉱工業生産指数



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北海道の最新月は速報値。
2. 全国及び北海道の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

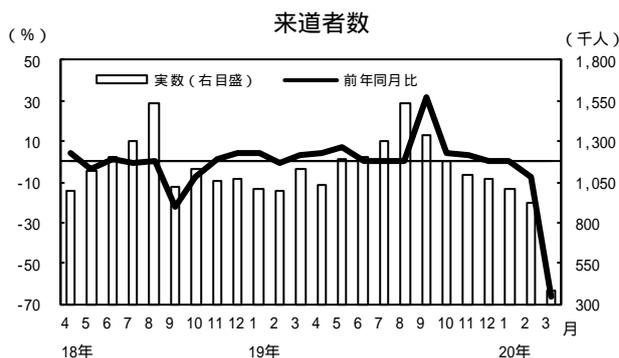
	付加価値 ウェイト	生産				
		10 - 12 月期	1 - 3 月期	1月	2月	3月
食料品	25.9	2.3	8.0	5.3	0.0	2.9
パルプ・紙	13.1	3.1	11.8	8.3	1.9	6.8
電気機械	9.1	6.5	5.5	1.8	8.6	8.2
鉄鋼	7.9	2.5	0.6	0.5	6.4	3.6
化学・石油石炭製品	7.6	0.9	11.4	8.0	6.1	8.8
鉱工業	100.0	2.4	0.4	0.2	1.0	0.7

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 1 - 3月期、3月は速報値。

1 主な水産物は、するめいか、さんま、すけとうだら、たこ類、ほっけを対象魚種とする。

(1) 北海道

(3) 観光は新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している。
来道者数は、航空機の利用者減などがあり、減少した。



(備考) 北海道観光振興機構調べ。

2. 個人消費の動向

個人消費は新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している。

(1) 地域別消費総合指数(RDEI(消費))

1月は前月比1.0%増、2月は同0.3%減、3月は同4.2%減となった。

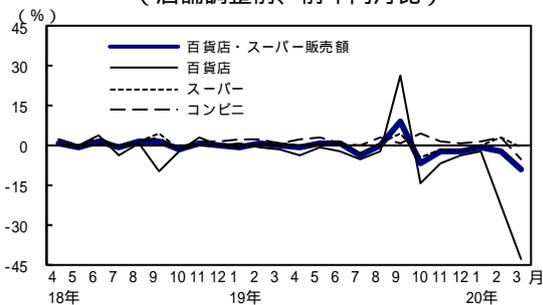
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店は、1月は、飲食料品等が減少したことにより、前年を下回った。2月は、衣料品、身の回り品等が減少したことにより、前年を下回った。3月は、衣料品、身の回り品等が減少したことにより、前年を下回った。

スーパーは、1-3月期は、飲食料品が増加したことにより、前年を上回った。

4月は、休業や営業時間の短縮を実施した店舗がみられた。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)

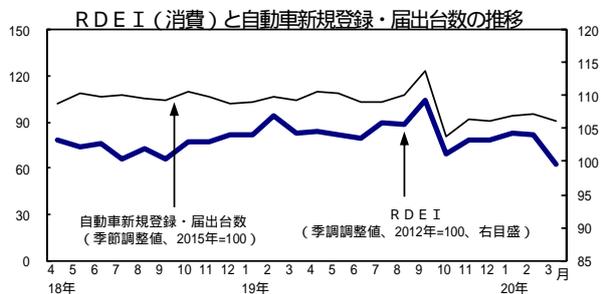


	2020年1-3月	2020年1月	2月	3月
RDEI(消費*1)	0.1	1.0	0.3	4.2
百貨店・スーパー(*2)	4.0	0.6	2.2	8.9
百貨店(*2)	22.0	2.4	22.0	42.4
スーパー(*2)	0.8	0.1	3.1	0.3
コンビニ(*2)	0.1	1.4	3.4	4.9
乗用車(*3)	10.1	9.0	9.3	11.1
(季節調整値)(*3)	6.3	3.6	1.3	4.4

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

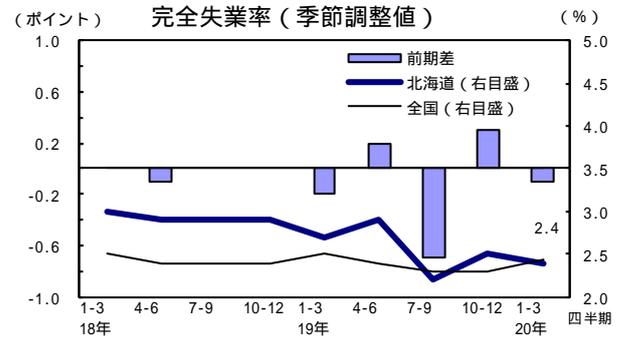
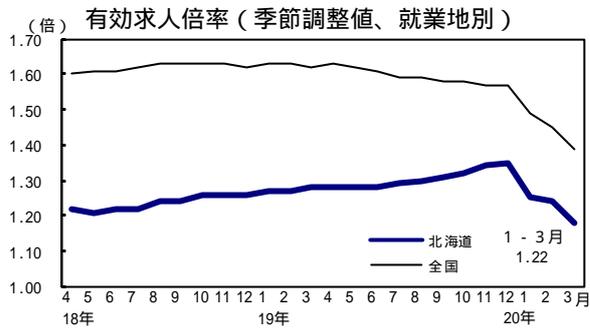
2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数 上段は前年同期(月)比(%)



3. 雇用情勢

雇用情勢は新型コロナウイルス感染症の影響により、弱さが増している。
有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を下回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査 (令和2年4月調査) 景気判断理由の概要

1. 北海道

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計動向 関連	×	・全国に緊急事態宣言が出されたことで、戻りつつあった客足が遠のいてしまった(高級レストラン)
			・新型コロナウイルスの影響もあり、食品などの必需品以外の需要が極端に低下している(スーパー)
			・この3か月間、来客数はほとんど変わっていない。ただ、今後については心配がある(美容室)
	企業動向 関連	×	・元々、前年から1割ほど落ちている受注量が、更に1割ほど落ち込んできている(食料品製造業)
			・営業活動を停止しているため、新規案件の獲得が全く進んでいない(通信業)
雇用 関連	×	・前年度からの繰越し工事と4月着工の新規受注工事で、新年度前半の工事量が確保できている状況に変わりはない。一方、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部の現場作業所では工事休止の動きが出てきている(建設業)	
		・道内の私立大学では授業を含めて教育活動が停止しており、就職活動も先の見えない状況となっている。このような状況下では、社会活動も、経済活動も一層の悪化は避けられない(学校[大学])	
その他の特徴 コメント			×：緊急事態宣言以降、一部フロアを除き店舗を休業しているため、売上が激減している(百貨店) ×：客単価が上がってきているものの、客の来店回数が減ってきている(コンビニ)
分野		判断	判断の理由
先行き	家計動向 関連	×	・現在の業務制限が大きく緩和される見込みがないため、収益にも大きな影響が生じることになる(通信会社)
			・買物行動を控えるようにという方針があったことで、日本人はそういう方向で動くことが見込まれるため、景気は悪いまま進むことになる(商店街)
	企業動向 関連	×	・新型コロナウイルスの影響がほぼ全業種に及んでおり、今後のマイナスの影響は計り知れない(その他サービス業[建設機械レンタル])
			・不動産業関連会社や建設業関連会社の休業がいつまで続くのか見通しが立たない。新型コロナウイルスが終息するまでの期間によって変わってくるため、今後の経済状況についての判断は難しい(司法書士)
雇用 関連	×	・休業や解雇の相談が増えてきていることから、景気への影響が、これからますます深刻になる(職業安定所)	
その他の特徴 コメント			・政治や経済各界での検討や対応が始まったことから、今よりは先に向けた明るい予測が出され、対策などの準備も進み始めることを期待している。また、そうでなければならぬ(旅行代理店) ×：新型コロナウイルスの影響はまだまだ続く。収束したとしても、元どおりになるまでかなりの年月が掛かることになる。タクシー乗務員は、給料も大幅に下がっており、ほかの職業への転職を考えている者も多く、このままの状況が続くようだと、会社の存続にもかかわってくる(タクシー運転手)

(D I) 現状・先行き判断D I (北海道)の推移 (季節調整値)

